

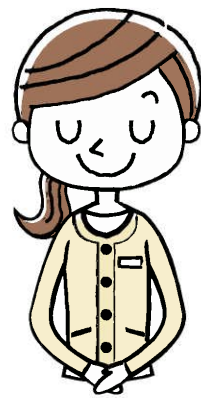
社協だより

篠栗町社会福祉協議会は、「住民主体」の理念に基づき、誰もが安心して暮らせる福祉の町づくりのため、さまざまな福祉事業や活動を通じて地域福祉を推進する団体です。本会では、町の皆さんの社協活動への参加や自主財源の確保を図るため「会費制度」を設けています。7月から、地域役員の方が会員加入依頼について皆さんの家庭を訪問し、お願いしています。

会員加入は社会福祉参加(ボランティア)の一つの方法です。どうぞ、多くの皆さんのご理解とご協力をお願いします。

事業内容は社会福祉協議会ホームページに掲載しています。

社会福祉協議会会員 加入のお願い



会費(年額)



賛助会員1,000円



特別会員10,000円



普通会員500円

会員特典

- ①葬祭場(天空会館)会員価格での利用
 - ②マッサージ割引券の利用
 - ③リフトカー貸出
 - ④チャイルドシート貸出
- ※②③④は年齢などの条件あり

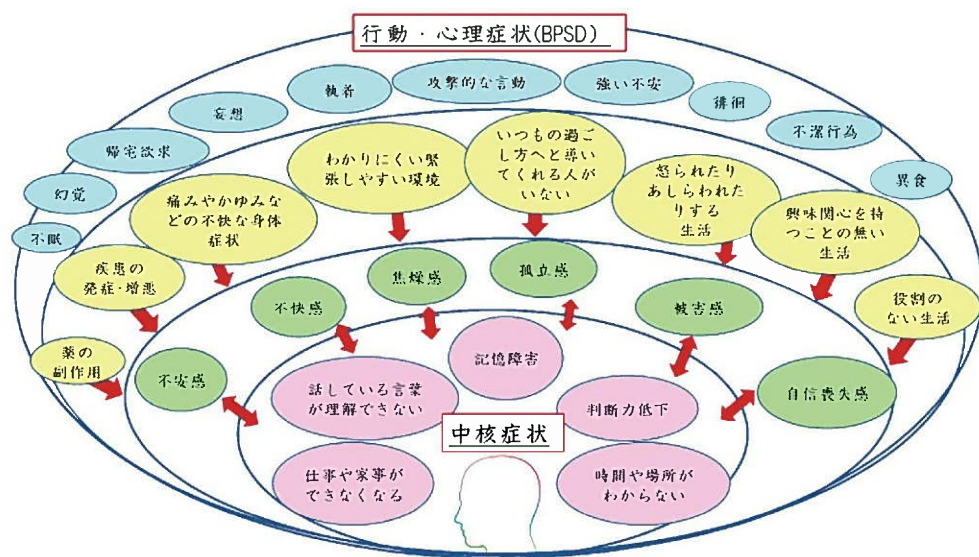
キャラバンメイト通信 -第2回-

認知症の症状について 中核症状と行動・心理症状(BPSD)

認知症の症状は、大きく二つに分けられます。

一つは「中核症状」で、脳の病的な変化・脳の障害により程度の差はあれ必ず出現します【図:ピンク】。多くは物忘れによって気づくことが多いようです。

もう一つは「行動・心理症状(BPSD)」【図:青】で、中核症状に付随して発生する症状です。介護者が対応に苦慮して負担に感じ、やがて疲弊していくことになるのは、中核症状よりこのBPSDによることが多いのです。中核症状が徐々に出てくると、患者自身は不安や焦燥感にかられ、次第に自信を無くし孤独感を感じるようになります【図:緑】。そこに身体面や生活面のさまざまな要因【図:黄色】が加わることでBPSDが出現します。



医療法人浜江堂
三野原病院
教育師長
永田 英子さん

中核症状とBPSDの関係からわかるように、認知症患者にとって環境の調整や認知症以外の身体症状の管理がとても重要です。

2025年には高齢者人口の約20%に当たる約700万人が認知症患者となり、世界規模では毎年1,000万人近く、3秒に1人が新たに認知症になると言われています。「自分はいかからない」と思うのではなく、「自分が認知症になった時、こんな介護を受けられるのであれば安心だ」と思える社会を今のうちから構築しておくことが大切です。

ファミリーサポートセンター講習会を開催しました

6月、ファミサポ会員になるための講習会を開催しました。地域での助け合いや子どもとの関わりで大切にすること、心肺蘇生法の実技、絵本や子どもの発達についてなどを学びました。最終日の交流会では、参加者が自己紹介をしながら今後の活動などについて活発に話し合いを行いました。

篠栗町も核家族・共働き世帯が増えています。子育てサロンなどで話を聞くと、子育ての手助けをしてくれる人が近くにいないことで、特に母親が一人で頑張っていることがよく分かります。歯医者に行きたい、子どもの保育園の迎えに間に合わないというときなど、短時間でも子どもを見てくれる人がいるととても助かりますよね。次回の講習会は11月に開催予定です。子育ての支援を受けたい方、支援をやってみたい方はぜひ受講してください。



乳児への心肺蘇生法練習中

ご寄付ありがとうございます

社会福祉協議会へ次の方々からご寄付がありました。厚くお礼申し上げます。

ご寄付いただいたご芳志は、社会福祉事業に有意義に活用させていただきます。

一般寄付として
■本戸一徳さま 乙犬区

香典返しとして

- 田代田鶴子さま 中町区 遺族 田代拓さま
 - 川口辰也さま 高田区 遺族 原里美さま
 - 佐藤一子さま 尾仲区 遺族 石井実希子さま
 - 古賀郁子さま 若杉区 遺族 新川里代さま
 - 稲永貴さま 若杉区 遺族 稲永信子さま
 - 長田和聖さま ベンタナヒルズ区 遺族 長田浩和さま
- (6月受付分)

